

## 一、法人全体

平成 31 年度は法人として以下の事業を運営しました。

事業種目	施設名称	定員 (人)	所在地(大分市)
就労継続支援B型	マルシェ	74	下戸次 1253番
就労移行支援		6	下戸次 1253番
共同生活援助	グランディール寒田 Ⅰ	7	寒田239-1
	グランディール寒田 Ⅱ	7	寒田239-1
	グランディール敷戸	7	敷戸南19番1号
短期入所	グランディール敷戸	1	敷戸南19番1号
放課後等デイサービス	プレジール	10	田尻 1380 番地 39
特定計画相談支援	リュミエール	—	下戸次 1253 番
障害児相談支援		—	下戸次 1253 番
日中一時支援	エスポワール	10	下戸次 1253 番
合計		122	

法人全体の重要な報告事項は次のとおりです。

- (1) 社会福祉法人制度改革に基づく運営をすすめました。
  - 1) 行政の指導監査に基づき役員報酬規程の改定(報酬総額記載)を行いました。
  - 2) 福祉充実残額の計算の結果、非該当となりました。
  - 3) 地域公益活動としては、マルシェで販売しているパンの在庫を廃棄せず、子ども食堂を運営されている社団法人すみれ学級に日々寄贈しフードバンク的な活動を30年8月から実施しています。今年度は140,540円の寄贈になりました。
- (2) マルシェの新規利用希望者の方が多く、現行定員の枠では受入困難となる見通しになったため、就労継続支援B型の定員を現行の59人から15人増加して74人に増員しました。
  - 1) 平成31年10月より就労移行支援事業は休止しており、就労継続支援B型は定員74人で運営しております。
  - 2) 今年度は実習生を多く受け入れ、令和2年度は新卒利用者さんが6名利用開始されます。今後とも利用希望者は増える可能性が高く、事業種目(就労継続支援A型・B型、生活介護など)や施設整備(土地の確保、施設整備)について将来計画を検討する必要があります。

- (3) 今年度は多少ではありますが、収益が改善いたしました。
- 1) .利用者数や利用率が上がり、収益が改善しました。
    - 1) マルシェの利用者が
    - 2) グループホームの利用率増
      - ・グランディール寒田Ⅰ・Ⅱに関しては、週末の帰省者が少なくなり、長期入院利用者も減ったため、利用率が高くなり収益が改善しました。
      - ・グランディール敷戸に関しては、空室の1室を埋められず、ギリギリの経営です。
      - ・常勤職員の退職がありましたが、常勤職員の補充は行わず人員の配置を見直し収益改善に努めました。収益改善にはつながりましたが、職員の負担は増える結果となりました。
    - 3) 放課後等デイサービス事業の定員解釈を行政に確認し、一日当たりの利用人数を10人に近づけました。
  - 2) .一方で福祉分野は人材確保がますます厳しい情勢となっており求人にかかわる費用が大きくなりました。
- (4) 「非常災害対策計画」の策定など安心・安全対策をより一層進めました。
- 1) .水害時の避難遅れによるグループホームの死亡事故の発生を受けて水害・地震・火災等の非常災害時の避難対策・手順を各施設の立地に応じたものとして策定しました。
  - 2) .敷戸のグループホームは土砂災害のリスクが想定されるため土砂災害避難マニュアルを予め策定し、高齢者等避難準備情報が発令された時点でリスクの少ない寒田のグループホームに集団避難しました。自閉症などこだわりにより環境適応が困難な利用者の避難のありかたを継続して研究していく必要があります。
- (5) 研修による職員の職務能力向上と委員会活動を進めました。
- 1) .法人内部研修会を毎月開催し、外部研修にも積極的に参加しました。
  - 2) .職員参加による委員会活動を展開してきました。
    - 虐待防止委員会
    - 広報委員会
    - 給食委員会
    - 夏祭り・年末懇親会委員会
    - 旅行委員会
    - 防災・感染症対策委員会
    - ヒヤリハット委員会
- (6) 施設長・管理者の世代交代を確定しました。
- 1) .平成31年度から、マルシェ・リュミエール・エスポワールの施設長交代いたしました。

- 2) .令和2年1月から、放課後等デイサービス事業所の管理者を交代いたしました。
- 3) .グループホームに関しても、施設長の変更をいたします。

## 二、各事業

### (1) 多機能型就労支援事業「マルシェ」の事業

#### 1) 就労継続支援B型事業（定員 74 人）

	30 年度	31 年度
開所日数	254 日	250
利用者延日数	14,637 日	15,195 日
月平均利用登録者数	70.4 人	72.3 人
1 日平均利用者数	57.6 人	60.8 人
平均通所率	81.8%	84.0%
作業収入（売上）	18,044,087 円	17,954,958
月額平均工賃	14,130 円	12,943 円

1. 今年度中はB型から1名一般就労を達成しました。
2. 職員体制としては目標工賃達成指導員配置加算（利用者対比 6:1 以上の職員配置）を算定しています。
3. 作業としてパン部門、クッキー部門、メンテナンス部門、リサイクル部門、軽作業部門、農業部門があります。今年度は、メンテナンス作業に力を入れて営業活動を行った結果、売り上げが飛躍的に向上しました。しかしながら、メンテナンス作業担当職員の負担も大きくなっております。
4. 平均工賃額に応じた報酬単価となったため、施設全体で工賃向上に取り組みました。前年度より平均工賃は下がってしまいました。令和 2 年度は利用者も増えるので、売り上げの増加が必要です。
5. 定員は 74 人ですが令和 2 年 3 月では 62.6 人となっており、まだまだ余裕があります。実利用人数を増やしていくことが課題です。
6. 知的障害の方が多数を構成しますが、精神障害・発達障害の方も増えており、心身の不調により通所率や作業参加率が低下傾向にあります。一人ひとりにとってのモチベーション向上に努めています。

#### 2) 就労移行支援事業（定員 6 人）

	30 年度	31 年度
開所日数	255 日	123 日
利用者延日数	1,094 日	531 日
月平均利用登録者数	4.67 人	5.33 人
1 日平均利用者数	4.29 人	4.32 人
平均通所率	91.9%	80.9%
作業収入（売上）	512,400 円	

1. 平成 31 年度の就労はありませんでした。
2. 支援学校高等部 3 年生の就労アセスメントを 6 名実施しました。



3. 日常作業としてはパンの販売を行い、就労に向けてPC入力訓練、面接練習、企業実習に取り組みました。就労後も定期的に職場訪問しアフターフォローに力を入れました。
4. 新卒利用者さんの受け皿として移行支援事業を継続してきましたが、A型やB型、生活介護等を希望される方が増えてきており、移行支援の利用者さんは減ってきております。事業としても赤字が続き、維持していくことが困難だと思われるので、平成31年度秋での休止いたしました。1年間の休止ですので、令和2年度9月までに再開もしくは廃止の決定が必要です。

(2) グループホーム（共同生活援助）「グランディール寒田」の事業（定員21人）

グランディール寒田は住居が3つありグランディールⅠ・Ⅱとグランディール敷戸に区分され各定員が7人（計21人）となっています。

	30年度	31年度
開所日数	365日	366日
利用者延日数	5,698日	6,366日
月平均利用登録者数	19.3人	20.0人
1日平均利用者数	15.6人	17.4人

外泊（帰省・入院等）は利用日に算定されません。

1. グランディール寒田では世話人配置基準の4:1基準を採用し、より多くの人員配置をして支援をしています。世話人は主として食事の提供、居室以外の清掃・環境整備を担当しています。
2. 障害支援区分3以上の方には世話人と別に生活支援員が配置されています。生活支援員は通院介助、買い物等の外出支援、入浴・排泄等の日常生活における介助、健康・衛生支援、金銭管理支援、就労先・通所先との連携、相談支援などの生活全般の支援を担当しています。区分3以下の利用者でも発達障がいや精神障害の利用者には配置基準を超えて生活支援員を配置せざるを得ない（安全上の問題）です。
3. これまでは、職員配置基準以上の人員を配置していたため、構造的に赤字の事業になっていました。職員体制をスリム化し、赤字構造から脱却することができましたが、現場の職員への負担は増えてしまいました。現場の負担を軽減しつつ、収益を安定させることが次なる課題です。
4. 夜間は宿直及び警備会社との業務委託契約で夜間支援を行っています。宿直専用の非常勤スタッフを採用し宿直体制を組んでいます。また利用者の急病・不穏時など夜間緊急時1人で対応できないときはオンコールシステム（夜間呼び出し待機制度）を組んでいます。
5. グループホームに併設型の短期入所事業は、延べ利用者数68人（30年度52

人) で年間利用日数は 260 日 (30 年度 264 日) と利用も広がりました。

(3) 放課後等デイサービス「プレジール」の事業 (定員 10 人)

	30 年度	31 年度
開所日数	240 日	235 日
利用者延日数	1,976 日	2,064 日
月平均利用登録者数	13.6 人	15.0 人
1 日平均利用者数	8.2 人	8.8 人

1. 平成 31 年度 4 月よりご利用者が 1 名増えましたので、全体の数字が上がっています。1 日 10 名を超えないように調整しています。
2. 支援学校・支援学級 4 校の生徒の放課後と学校休業日は 9 時から 17 時までのデイサービスを実施しました。延長が必要な方には前後 30 分程度の延長支援を行っています。又、学校からプレジールまでと、必要な方はご自宅までの送迎を実施しています。
3. 個人ごとの支援計画をたて、計画に沿った支援に取り組んでいます。身辺自立・自己肯定感・集団の中での適応力・コミュニケーション能力を高めること等を目標にし、安心・安全で楽しく充実した日々を送れるよう心がけています。
4. 月に 1 回の定例会議と開所前の話し合いを行い職員間の共通理解を図っています。又、モニタリング・個別支援計画会議を行い、全員でよりよい支援が行えるように取り組んでいます。
5. 昨年に引き続き職員は、保育士・児童指導員などの専門資格者を配置するとともに、支援度が高い利用者さんがいますので、配置基準を超えてパートの職員さんを増やしています。
6. 年に 3 回の防災訓練を実施しました。
7. 事業所評価表と保護者評価表のアンケートを実施し、ラポールのホームページに結果を掲載し、改善に取り組んでいます。

(4) 特定計画相談支援・障害児相談支援「リュミエール」の事業

	30 年度	31 年度
利用等計画作成件数 (年)	117 件	110 件
モニタリング件数 (年)	130 件	181 件
合計	247 件	291 件

1. 計画相談支援・障害児相談支援の事業も平成 25 年度に開設して 6 年目となり、計画相談件数も増加してきました。
2. 主な契約対象者はラポールの利用者ですが他の法人を利用されておられる方の計画作成・モニタリングも相当数あります。
3. 利用等計画は障害福祉サービスの利用に際して公正・中立の立場でニーズを把

握し、適切なサービスの利用計画を組むことが求められています。関係機関との連携を密にし、専門性を高めて利用者のニーズに応えられるように努力してきました。

4. 相談支援専門員は1名体制ですのでかなりハードスケジュールになっています。兼務でもう1名の相談支援専門員を配置できるよう人材育成・研修受講をすすめる必要があります。

(5) 日中一時支援「エスポワール」の事業（定員 10 人）

	30 年度	31 年度
開所日数	240 日	236 日
定員	10 人	10 人
利用者延日数	1,930 日	1,925 日
1 日平均利用者数	8.0 人	8.2 人

1. 日中一時支援事業は大分市・臼杵市との委託契約に基づく事業で、マルシェ（就労継続支援B型事業所）の作業後の時間・場所を活用できるという制度をもとに平成 25 年度から開始して 6 年目になります。
2. 利用希望者も増えましたので、26 年度から定員を 5 人から 10 人に増やしています。
3. 利用者の希望・事情に応じて送迎も実施しています。保護者が就労されていたり疾病等でケアが困難な場合に大変助かっていると評価されています。
4. 大分市に加えて臼杵市とも委託契約を締結し、臼杵市の方も利用されています。